

第25回道北の地域振興を  
考える講演会  
「最北のお酒造り最前線」

2022年11月17日(木)

# “天塩川テロワール”の可能性

The Rural Development  
Study Group  
of North Hokkaido

道北の地域振興を  
考える研究会

Since 1997

清水池 義治

(北海道大学大学院農学研究院、  
道北の地域振興を考える研究会・会長)

# 「道北の地域振興を考える研究会」

承認平14総旗第149号

私たち「道北の地域振興を考える研究会」は、道北地域の自立的発展に寄与するため、政治・経済・人口動態・住民自治・保健・福祉・医療・教育・文化・スポーツ・観光・交通・自然環境・国際関係上の位置づけなど、道北地域住民の経済活動と生活に関わるさまざまな問題を研究します。

- 共通の自然環境・社会・歴史・文化を共有し、
- 共通の地域課題に直面し、
- 特定の地域アイデンティティを共有する

“道北＝北海道北部”



# テロワール (*Terroir*)

- フランス語の“土地”から派生して生まれた概念
- ◆ 生産物が生み出された場所と  
その生産物がもつ特定の品質、あるいは消費者評価との間には、本質的な関係性がある。
- ◆ ある生産物の品質や消費者評価には、  
その生産物が生み出された場所の  
自然環境や地域社会、歴史、文化が反映されている
- 工業製品化した食に対して、食本来の姿を取り戻そうとする概念としての意味も

北の先端から日本を見る。そこに大きな川がある。



# 天塩川



北海道北部  
地域の  
シンボル  
としての

# 天塩川

# 広域的な地域振興概念としての “天塩川テロワール”

- 天塩川流域としてシンボライズされる北海道北部は、豊かで厳しく特徴的な自然環境、それを基盤とする農林漁業、それらと共に育まれてきた地域社会・歴史・文化、そして解決すべき問題点を共有している  
➡ 日本、そして北海道の他地域とは異なる特徴！
- 北海道北部で生み出される生産物やサービス、文化には、他にはない唯一無二のオリジナリティがある
- 共通のテロワールを共有する北海道北部の自治体・事業者・住民が、天塩川流域＝北海道北部の単位で広域的な地域振興策に取り組む意義



# 本日の事例報告への期待

- “日本最北のお酒造り”の魅力とは？
- “日本最北のお酒造り”には、北海道北部地域のテロワールがどのように映し出されているか？
- “日本最北のお酒造り”の一体的な発展と、それを通じて北海道北部の地域振興へとどのように繋げていくか？

# 参考文献

- 神沼公三郎・奥田仁・佐藤信・前田憲編(2008)『北海道北部の地域社会:分析と提言』筑波書房。
- 清水池義治・神沼公三郎・佐藤信・吉田俊也・奈須憲一郎・三島徳三(2011)「フランス地域自然公園制度(PNR)を活用したボトムアップ型地域振興の可能性—天塩川流域を対象として—」『地域と住民』29(名寄市立大学道北地域研究所年報)、pp.73-88。